

さらに御加護を祈念する

山主
黒田大園

当寺を開創して十八年目を迎えます。ゼロから出発して今日の隆昌を招来し得たのは、仏天の加護のもと、檀信徒の皆様の絶大なる御協力御援助の賜と常に感謝しております。

釈迦殿は、脇仏を制作勧請して一応整備されましたので、今年は不動殿に矜羯羅ごんがら、制咤迦せいたかの二童子をお迎えして、本尊不動明王がいよいよ威光を増加し衆生利済の実を挙げてくださるよう祈願申し上げる所存であります。

不動明王の本体は大日如来であります。大日如来は、普通、一般の衆生を救済なさるときには般若菩薩の姿をとつて現れるのですが、通常の説法では救いがたいような剛強難化ごうきょうなんかの衆生に対しても忿怒形ふんぬぎょうの不動明王となつて現れるのであります。勝手気儘かねねぎまなものが多い今日を救つてくださるのは生に不動明王であります。

不動明王は、三十六童子、八大童子等の眷属けんぞくを従えております。なかでも、矜羯羅、制

咤迦の二童子は常に不動明王の左右にはべり、不動明王の命に従い忠実にはげむものであります。経文には、「聖無動の眷属けんぞく、三十六童子、各々千万童を領す、本誓悲願の故に、4万億の悪鬼 行人を繞乱せん時、この童子の名みなを誦すれば、皆ことごとく退散し去る、若し苦厄の難あらん、咀呑病患のものは、當に童子の名みなを呼ぶべし 須臾にして吉祥を得ん 恭敬礼拝するものの 左右を離れず 影の形に随うが如く護り長寿の益やくを獲得せしむ」

これまで当寺をお護りくださいされ、今日の盛栄にまで導いてくださった不動明王に対し、矜羯羅童子、制咤迦童子を勧請するのに十八年を要したことは、正に遅きに失した憾憾がありますが、おゆるしいいただき、今後一層の御加護を祈念する次第であります。

檀信徒の皆様方も、「恭敬礼拝するものの左右を離れず、影の形に隨うがごとく護り、長寿の益を獲得せしむ」というみ教えを信じ、いよいよ恭敬礼拝に御精進あらんことをお願い致します。